

神戸発「生きる力」を育む 防災教育

神戸の防災教育は、阪神・淡路大震災という未曾有の災害を乗り越えていく過程で学んだ教訓を学校教育の中で生かし、未来に向かって力強く生きていく子どもの育成を図っていくことをねらいとしています。

一人一人の子どもに「生きる力」を育むために、防災教育をその中心的な存在と位置付け、学校教育を進めていきます。



高校生に教えてもらいながら
防災マップを作成する小学生

神戸の防災教育の特長

- 副読本「幸せ 運ぼう」等、教職員によって開発された豊富な教材
- 各教科に位置づけられた「防災教育カリキュラム」
- 1.17を中心に行われる追悼行事・防災訓練等、各学校園の創意あふれる実践
- 防災福祉コミュニティなどの地域団体や関係機関、大学、NPOなどとの連携した実践
- 子どもたちの地域行事・ボランティア活動への参加

3つの視点



東日本大震災後、回収された写真を
クリーニングする小学生

震災体験から学んだ教訓を生かす

○命の大切さ、生きるということの意味、人間と自然の在り方、人と人とのつながり等、震災から学んだことを生かします。

防災・減災

○災害の予防、災害時の被害の抑制、災害復旧などについて学習を深めて、「自分の命は自分で守る力」を身に付けた子どもたちを育成します。

思いの共有化

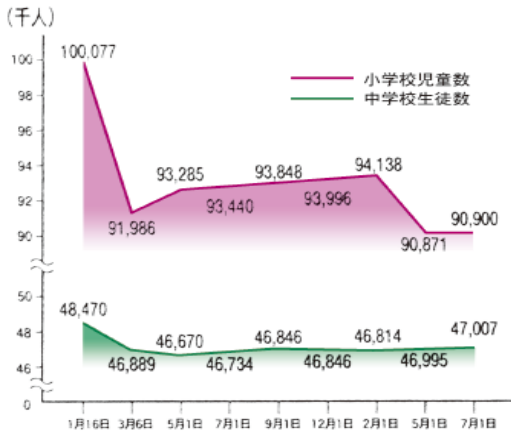
○震災を体験していない子どもたちが、相手に寄り添い、震災の痛みを理解することで、人と人とのつながりをつくります。

目指す子ども像

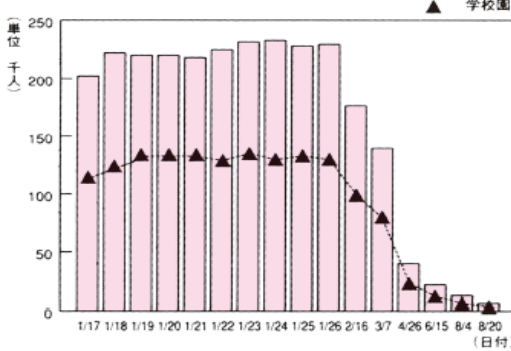
- 困難な状況に出会ったとき、自ら判断し、主体的に行動できる子ども
- 自他の命や人権を尊重できる子ども
- 相手の思いに寄り添い、共感的に受け止める優しさをもつ子ども
- 自然を正しく理解し、そのすばらしさに気付くとともに畏敬の念をもつ子ども
- 社会の一員としての自覚をもち、社会に対して積極的にかかわろうとする子ども
- 自らのかけがえのない命を自分で守ることができる子ども

【阪神・淡路大震災直後のデータ】(平成7年～平成8年)

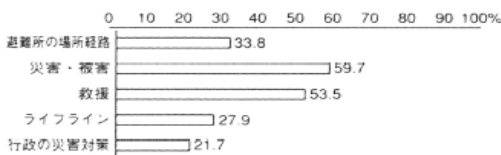
◇震災後の小学校児童、中学校生徒数の推移
(平成7年1月16日～8年7月1日)



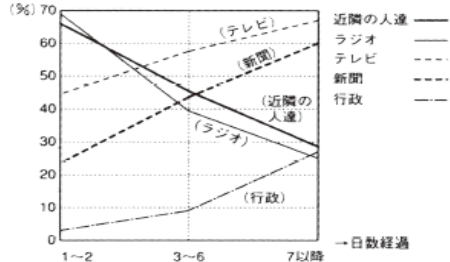
◇避難所で生活した住民数の推移



◇震災直後に必要とした情報の種類



◇震災後の情報入手の方法の推移



被災地域住民実態調査より
(財)神戸都市問題研究所 (平成7年3月～5月)

◇平成6年度の神戸市立学校園数及び被災校園数 ※()内は分校

校種	校園数	被災校園数	比率 (%)
小学校	173	161	93.1
中学校	82 (2)	78 (2)	95.1
高校	12	12	100.0
幼稚園	71	37	52.1
盲・養護	6	6	100.0
高专	1	1	100.0
合計	345 (2)	295 (2)	85.5

◇震災前後の人口の変動

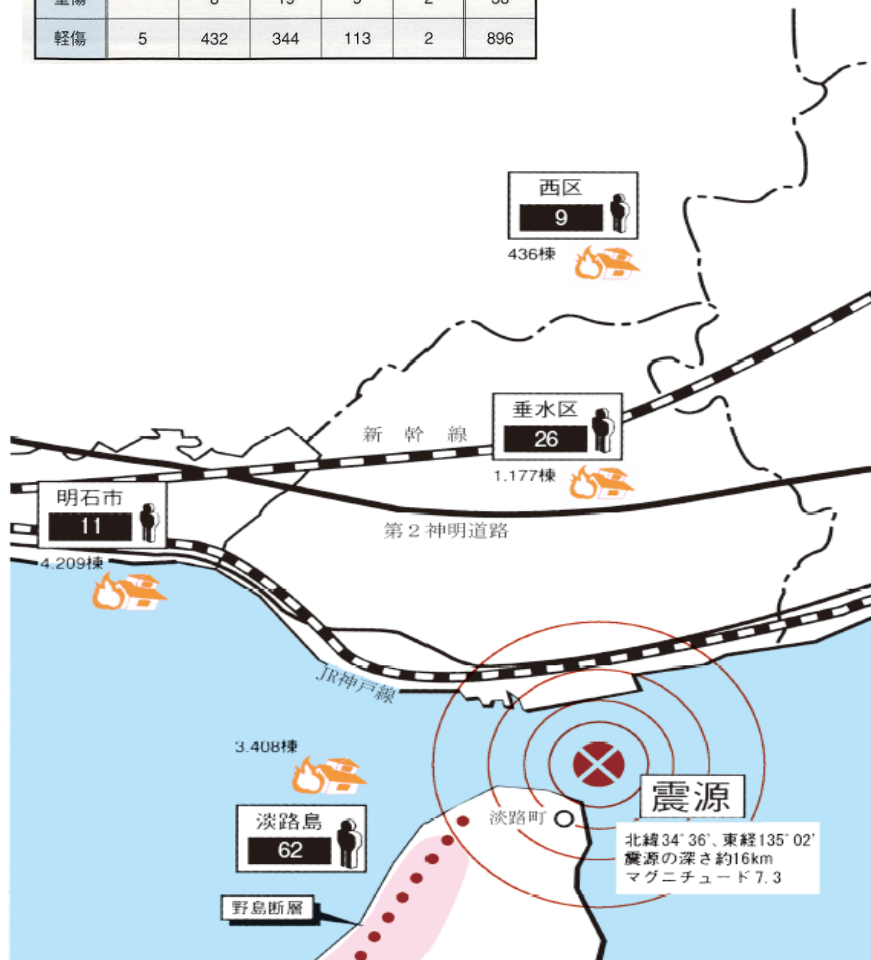
(H6.3現在)	(H8.3現在)	(増減)
1,510,835人	1,420,337人	▲90,498

◇市立学校園在籍者の死亡者数 ※単位は人

	幼稚園	小学校	中学校	高校・高专	盲・養護	合計
合計	4	108	47	17	3	179

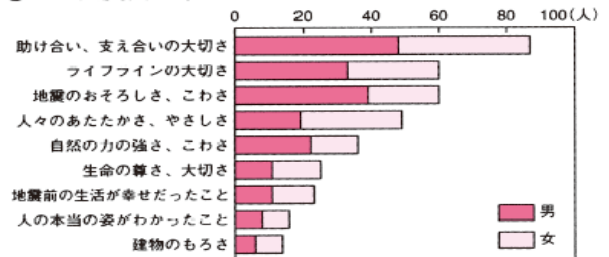
◇市立学校園在籍者の負傷者数 ※単位は人

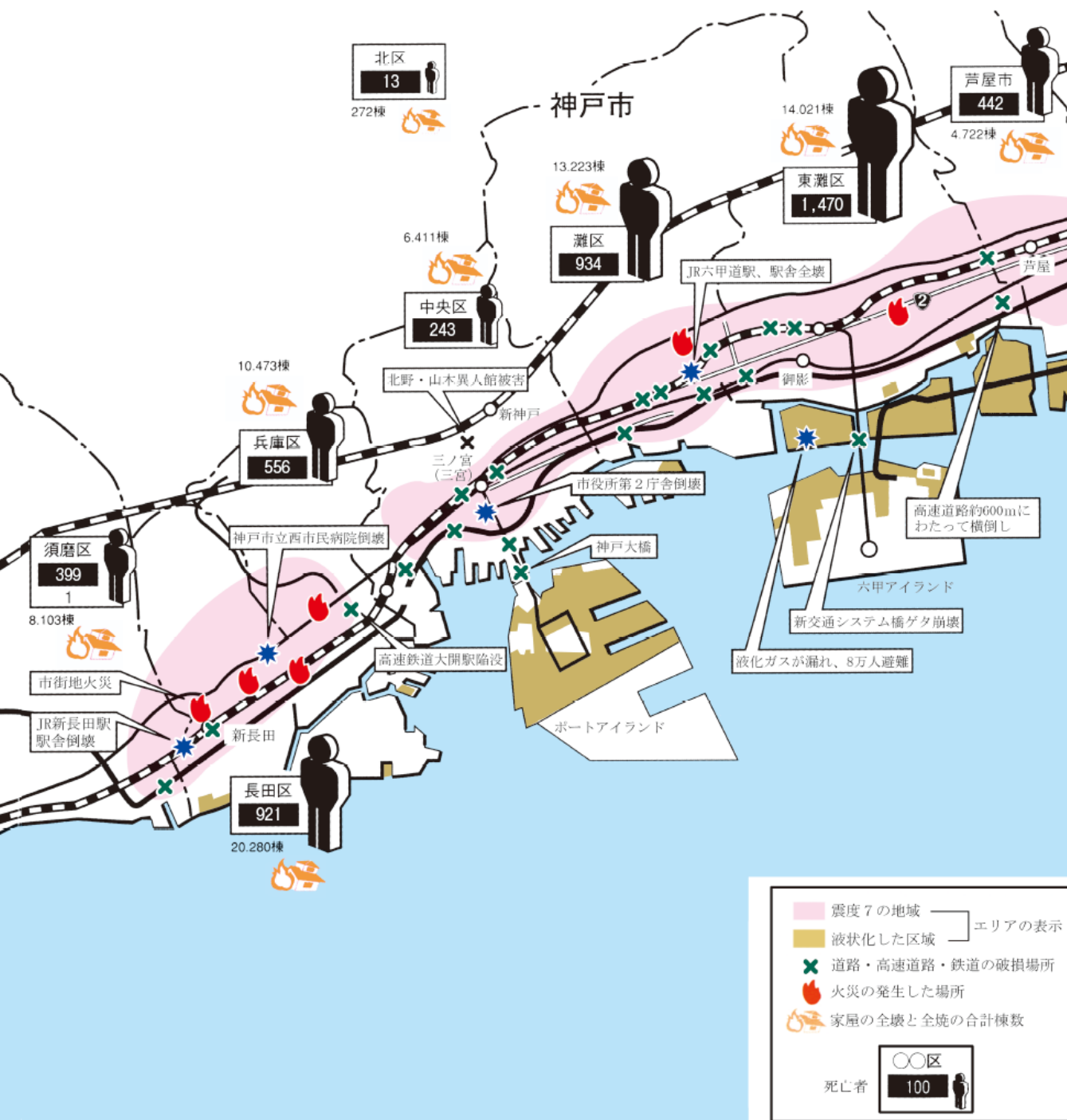
	幼稚園	小学校	中学校	高校・高专	盲・養護	合計
重傷		8	19	9	2	38
軽傷	5	432	344	113	2	896



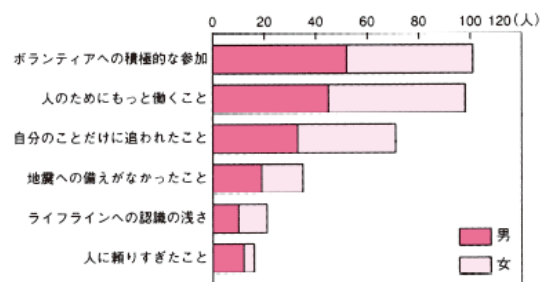
震災体験についてのアンケート回答

①この大震災の中で、最も強く感じたことは？

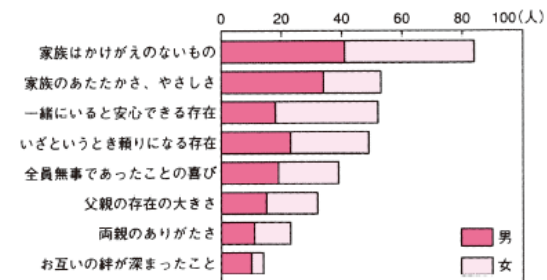




②自分自身の反省点は？



③家族について、感じたことは？



[被災校の中学3年生426人(男226・女200)を対象とした調査より(平成7年10月実施)]

1995年（平成7年）1月17日午前5時46分 兵庫県南部地震発生

震源地は淡路島北部。震源の深さ約 14 km。マグニチュード 7.3、最大震度 7。

都市直下型の兵庫県南部地震は、神戸市で 4,500 人余り（市立学校園生徒 179 人）の尊い命を奪い、都市機能は完全に失われました。



陥没した道路。市内のいたる所に地割れがおこり、交通渋滞がおきました
＜神戸新聞社提供＞



地震直後から起こった火災は市内で 175 件。消火活動が間に合わず、町は燃え続けました
＜神戸新聞社提供＞



市内の家屋全半焼（1/17～26） 7,328 棟
火災発生件数 175 件 焼失面積 819,223 m²
＜神戸新聞社提供＞



避難住民 市内 590 か所、237,000 人弱（最大 1/24）
多くの学校が避難所となり、学校として機能しなくなりました



体育館を仕切ったの 2 クラス合同授業
テント授業、午前・午後の 2 部授業、須磨水族園での授業等
各学校園では、工夫して学校再開を進めました



運動場には、応急仮設教室、駐車場、風呂、診療所など
応急仮設教室数は、60 校、565 教室に上りました
＜人と防災未来センター提供＞

防災教育副読本「幸せ運ぼう」

全国に先駆けた防災教育副読本

○平成7年11月、阪神・淡路大震災を受けて、教育復興担当教員等が中心になって、「生きる力」を育む防災教育を進めるための副読本として、全国に先駆けて作成されました。

○平成17年、スマトラ島沖地震による津波被害を受けて、津波教

材を追加し、平成21年、灘区都賀川水難事故を受けて河川の急な増水に対する教材を追加しました。

○「しあわせ はこぼう」（小学校1・2・3年生用）（小学校4・5・6年生用）、「幸せ 運ぼう」（中学生用）の3種類。小学1年生、小学4年生、中学1年生の全員に毎年、個人配付しています。



平成25年度版

東日本大震災の教訓を生かす

○仙台市教育委員会の全面的な協力を得て、東日本大震災の教訓を学ぶことのできるよう大幅な改訂を行いました。

○「新たな神戸の防災教育検討委員会」の議論をもとに、震災や津波、様々な災害を学ぶことができる教材、被災地の思いに寄り添い、自らの課題と捉えることのできる教材を集めています。

小・中学校を貫く6つの主題 <自分の命を自分で守ることができる子ども>

人間としての在り方生き方を考える → ①命の大切さ ②人と人とのつながり

防災上必要な知識を身に付ける → ③自然に関する知識 ④社会に関する知識

防災上必要な技能を身に付ける → ⑤みんなにできる防災 ⑥命を守る方法

小学校用「しあわせ はこぼう」のポイント

○どの学年でも使用できる「共通教材」と学年毎に学ぶ「学年教材」

○トピック教材、豆知識コーナーを加え、様々な自然災害や多くの事例を掲載

○仙台市教育委員会から教材の提供を受け、仙台市のページを作成

中学校用「幸せ 運ぼう」のポイント

○「こんなことがあった」「命を守る」「共に生きる」の3部構成

○阪神・淡路大震災当時の貴重な作文や記録を「アーカイブ」として掲載

○東日本大震災で注目された原子力災害についての内容を記載

○仙台市教育委員会から教材の提供を受け、「絆」教材を作成



歌い継がれる「しあわせ 運べるように」

生まれ育った神戸が、もう一度元気によみがえるようにと、自らも被災した市立小学校の音楽教師、臼井真（うすいまこと）先生がつくった「しあわせ 運べるように」も、初版本から収録されており、神戸市の全ての子どもたちに歌い継がれています。

創意あふれる防災教育の実践

各学校園では、地域や関係機関と連携して、創意あふれる防災教育の実践に取り組んでいます。

子どもたちの意欲を引き出す活動、自ら防災課題について考えていくような問題解決的な学習を工夫すること、体験的・実践的な学習を工夫すること等が大切です。



中学校と幼稚園の津波を想定した合同避難訓練



消防団の方や地域の方に
AEDの使い方を教えていただく



地域の方とけが人を運ぶ訓練を
する小学生



地域の方に協力していただき
校区の防災マップを作成する

東日本大震災被災地への支援活動・交流活動

東日本大震災の後、全ての学校園で、自主的に被災地に対する支援活動が行われました。遠く離れた被災地に思いを寄せ、自分たちに出来ることを考え、主体的に取り組む子どもたちの姿は、これまでの防災教育の成果の表れであると考えます。



主体的に始まった児童生徒の
被災地への募金活動



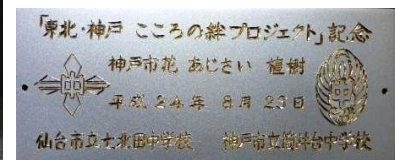
げんきッズ岡田 in 神戸
仙台市立岡田小学校の児童と一緒に
復興した神戸のまち巡り

東北・神戸 こころの絆プロジェクト

神戸市では多くの学校が被災地の学校等と交流を行ってきました。そのうち小学校2校・中学校6校・高等学校1校が、さらにこころの絆を深めることを目的として、現地へ向き、交流会等を行いました。



いわき市立四倉中学校を訪問



仙台市立七北田中学校を訪問

新たな神戸の防災教育検討委員会

平成24年、仙台市教育委員会、兵庫県立大学、神戸学院大学、神戸大学、神戸新聞社、人と防災未来センター、神戸海洋気象台、神戸市社会福祉協議会等の関係諸機関の協力を得て、「神戸の防災教育の成果と課題」「東日本大震災の教訓」「防災教育カリキュラムや防災マニュアルの見直し」「今後の防災教育の方向性」等について議論を重ねて、提言をまとめました。



新たな神戸の防災教育検討委員会

今後の神戸の防災教育の方向性（新たな神戸の防災教育検討委員会提言より抜粋）

- 防災教育副読本「幸せ 運ぼう」等、教職員が開発した豊富な独自教材を活用する
- 各学校園で、特色ある「防災教育カリキュラム」を策定・展開する
- 震災追悼行事・防災訓練等の特色ある実践を継続発展させる
- 東日本大震災の被災地支援、交流活動を継続発展させる
- 子どもたちのボランティア活動・地域行事への積極的な参加を促進する
- PTAや防災福祉コミュニティ等の地域団体と協働で行う防災訓練を推進する
- 地域防災計画との整合性を図りながら、防災マニュアル・津波対策を充実する
- 関係機関、大学、NPO等との連携強化、防災教育ネットワークの強化を図る
- 神戸発「生きる力を育む防災教育」の取組を引き続き、全国に発信する

東南海・南海地震は必ず起きる



- 太平洋沖を震源とする大地震は100～150年周期で発生している
- 震源域により、南海地震、東南海地震、東海地震と呼ばれている
- 3つの地震は同時に発生したり、数時間から数年の間に続けて発生したりする
- 東南海地震、南海地震は前回起きてから70年以上経ち、発生確率が高まっている
(※2018年1月1日現在では、南海地震、東南海地震の30年以内の発生確率が70%～80%に上昇しています。)
- 南海トラフ巨大地震が起きた場合の、神戸市内は最大震度6弱、津波高は4.2m程度と予想されている

東南海地震・南海地震は必ず起こるという意識をもち、防災教育を推進する

発行：神戸市教育委員会事務局 電話：078-987-0713

平成25年2月発行
令和元年12月改訂